別紙２　令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立宮原小学校 ）　　学校番号　０５３

目指す学校像	宮原小の１５０周年の伝統を受け継ぎ、信頼を土台に子ども一人ひとりが輝ける学び舎

重点目標	１　「主体性」「学びの達成」「読解力」「言語活動の充実」をキーワードにした確かな学力の定着 ２　健康・体力向上と安全な学校づくり ３　コミュニティスクールを核とした学校と保護者、地域との強い絆で結ばれた学校づくり ４　新たな教育課題に敢然と立ち向かう教職員集団の育成

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和６年２月１３日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査では、国語科、算数科ともに全国平均と県平均を上回り、これまでの取組の成果が現れてきている。 ○市学習状況調査の国語科の観点別結果では、「話すこと・聞くこと」はほぼ市平均と同じだが、「書くこと」「読むこと」は市平均を下回っている。 ○月曜朝１５分間の「みやりんタイム」や辞書引きの継続等により学習意欲が高まっている。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査や市学習状況調査の結果分析から「基礎学力の定着・向上」が課題である。 ○特に、基礎学力にかかわる「書くこと」「読むこと」に課題がある。	・自分の考えを適切な手段と豊かな言葉を用いて相手に伝えることができる児童の育成	①全国学力・学習状況調査を自己採点し、その結果をタブレット端末に保存・自己分析することで児童自身が学習状況を把握できるようにする。 ②授業においてＩＣＴを効果的に活用し、自分の考えを相手に伝えることができるようにする。	①児童が自己採点の結果を基に、自らの学習状況を把握し、目標を立て、達成に向けて主体的に学びを進めることができたか。 ②学校課題研修において、研究授業２回、公開授業４回を実施し、ＩＣＴを効果的に活用したか。	①全国学力・学習状況調査を自己採点し、その結果をタブレット端末に保存・自己分析したが、主体的な学びに十分につながったと言えない部分があった。 ②学校課題研修において、研究授業２回、公開授業４回においてＩＣＴを効果的に活用することができた。	B	①「主体的な学び」にどのようにつなげていくかの研修を深め、具体的な方策を立て実践していく。 ②研究授業だけでなく、様々な授業で、「自分の考えを相手に伝える」場面でのＩＣＴ活用を図っていく。	・「読解力」は１日で身に付いたりするものではない。日々の授業で指導していくことが必要である。 ・「書くこと」「読むこと」「ＩＣＴ教育の推進」を関係付けるのは矛盾があるのではないか。 ・「読解力」をつけるために、「読書の時間は今後もしっかり続けてほしい。 ・今後も様々な研修を通して、教職員の指導力を向上させてほしい。
		・国語科における「読解力」向上にむけた授業改善	①全国及び市の学力学習状況調査の最新の結果から、国語の「読むこと」の状況を分析し、指導方法の改善に向けた研修を行う。 ②国語科に係る指導者を招聘し、御講演をいただくとともに、年間２回の研究授業の実践を通して、「読解力」について御指導をいただく。	①学校課題研修会等において、全国及び市学力学習状況調査国語科の「読むこと」の結果を分析し、指導方法の改善につなげることができたか。 ②国語科に係る指導者を招聘し、低・高学年の２ブロックで研究授業を実施できたか。	①全国及び市学力学習状況調査国語科の「読むこと」の結果を学校課題研修会や研究授業の準備段階で分析し、改善につなげた。 ②指導者を招聘した研究授業を低学年ブロックでは１年生で、高学年ブロックでは４年生で実施し、授業参観および研究協議会を通して、研究を深めることができた。	A	①②学校課題研修において、引き続き同テーマを主題とし、研究授業の実践と分析を中心に、指導者の御指導をいただきながら研究を更に深め、児童の「読解力」向上を図っていく。	
2	〈現状〉 ○屋外での活動が充実してきたが、コロナ禍の影響もあり、児童の怪我が多くなっている。令和４年度の怪我による保健室来室は延べ 1,330 人であった。 ○建物の老朽化が進んでおり、危険箇所や整備が必要な個所がある。 〈課題〉 ○児童の怪我を減少させる取組を強化する必要がある。 ○毎月の定期的な安全点検はもちろん、日常においても危険箇所や整備が必要な個所の点検を実施し、速やかな整備を進め、安心・安全で美しい環境を維持することが必要である。	・子どもの怪我を減少させる取組の充実	①怪我マップを作成・分析をし、怪我多発箇所改善の予算計画と執行を行うとともに、教職員による児童への怪我防止指導を強化する。 ②休み時間に、教職員による校庭や遊具の見回り及び児童への指導を行う。	①怪我マップの作成と分析を通して、怪我多発箇所の改善と、教職員の怪我防止指導強化につなげることができたか。 ②怪我による保健室来室数を、前年度より減少させることができたか。	①怪我マップの作成と分析を通して、怪我多発箇所の改善と、教職員の怪我防止指導強化につなげることができた。 ②怪我による保健室来室数を、前年度より約４％減少させることができた。	A	①②今後も怪我マップの作成・分析を生かしながら、怪我多発箇所の改善及び教職員による怪我防止指導を継続し、児童の怪我を減少させる。	・怪我マップの活用は、大変有効であると思う。今後も積極的に活用し、事故防止につなげてほしい。 ・施設については、責任をもって点検をしてくれているのがよくわかった。教職員が子どもに近いからこそ、危険が想定できると思う。見付けた施設の損傷個所は、今後もすぐに修理等対応して、子どもたちの安全確保に努めてほしい。
		・安全・安心で美しい教育環境の整備	①日々の点検で危険個所を早期に発見し、３日以内に対応をする。 ②定期的な安全点検で安全措置を速やかに行うとともに、１週間以内に修繕を行う。また、内容に応じて教育委員会と適切に連携し対応を依頼する。	①施設の修繕漏れに関わる事故を前年度より削減させることができたか。 ②学校評価の「安全管理の状況」について、肯定的回答９０％以上となったか。	①日々の点検や月毎の安全点検の結果から早期の修理対応し、施設の修繕漏れ事故を０にすることができた ②学校評価の「安全管理の状況」について保護者・学校運営協議会委員・教職員とも９５％以上が肯定的回答だった。	A	①②今後も教職員による日々の点検や月毎の安全点検と早期の修理対応を確実に行い、施設の修繕漏れ事故０を継続していく。	
3	〈現状〉 ○令和３年度にコミュニティ・スクール実施校に指定され、本校の学校運営協議会の役割について確認、令和４年度は「豊かな心を育てるために」～スローガン策定に向けて～をテーマにして熟議を重ねた。 〈課題〉 ○コミュニティ・スクール（学校運営協議会）を核とした地域づくり（地域の宝、社会の宝である子どもの育成）を地域へ情報発信できるようにする。 ○「宮原小学校 学校・家庭・地域連携協働計画」「統一スローガン」に基づいた具体的な実践により、地域とともに歩む学校づくりを推進する。	・学校だよりや学校ホームページなどを活用した、学校運営協議会取組内容の積極的な発信	①学校運営協議会における熟議等の概要を、学校だよりに掲載することで情報を発信する。 ②本校のホームページにおいて、学校運営協議会の記録を掲載することで、広く情報を共有する。	①学校だよりの中に、学校運営協議会の取組について掲載することができたか。 ②学校ホームページ「コミュニティ・スクール」の項目において、広く情報発信することができたか。	①学校だよりの中に、学校運営協議会の取組や熟議の内容等について掲載することができた。また、会議や取組の様子を撮影した写真も掲載し、様子がよりわかるよう工夫した。 ②学校ホームページ「コミュニティ・スクール」内で、会議の記録や、取組の報告、家庭への取組協力依頼などを行い、広く情報発信ができた。	A	①②今後も学校だよりやホームページを積極的に活用し、学校運営協議会の様子や取組について周知を図っていく。特に取組については、保護者・地域の皆様の意識を更に高め、より多くの方に御協力いただけるようにしていく。	・コミュニティ・スクールの取組については、今後もこのまま情報発信を続けてほしい。 ・今年度、具体的な取組として行ってきた「挨拶の推進」に関しては、どうにか「大人が挨拶をすれば、子どもたちも挨拶を返してくれる。」という段階に手がかかってきたなというところまで来たので、来年度は十分できるよう、取組の本気度を高める必要がある。 ・「挨拶」の前提として「心」が大切である。「心の教育」を重視したい。また、土台はやはり「家庭」である。
		・「宮原小学校 学校・家庭・地域連携協働計画」「統一スローガン」を生かした、具体的な実践	①第１回学校運営協議会にて実践について熟議を行い、内容を決定したのちに実践を行う。 ②第３回学校運営協議会において、実践の振り返りと、課題や改善点について熟議を行い、次年度の実践につなげていく。	①「宮原小学校 学校・家庭・地域連携協働計画」「統一スローガン」を生かした、具体的な実践ができたか。 ②第３回学校運営協議会において、次年度への課題等を取りまとめることができたか。	①第１回・第２回の学校運営協議会の熟議において、「宮原小学校 学校・家庭・地域連携協働計画」「統一スローガン」に基づいた具体的な計画を立て、実践することができた。 ②第３回学校運営協議会において、実践の振り返りと次年度への課題や改善点等を取りまとめることができた。	A	①②「宮原小学校 学校・家庭・地域連携協働計画」「統一スローガン」を生かした、具体的な実践を今後も継続していくとともに、ＰＤＣＡサイクルを意識し、より効果的な取組について検討していく。	
4	〈現状〉 ○前年度保護者学校評価において、ＩＣＴ教育についての肯定的評価が７５％である。 ○前年度教職員学校評価において、各教科等のＩＣＴを活用した授業の状況は、９０％である。 〈課題〉 ○ＧＩＧＡスクール構想を推進するにあたり、教職員のＩＣＴ活用能力に差がある。 ○ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥの教材研究や授業づくりが必要である。	・学校課題研修に「ＩＣＴ機器の活用による授業づくり」の位置づけ ・教科等部会の活用や研修の実施	①学校課題研修の主題を達成するための手立ての一つとして「ＩＣＴ機器の効果的な活用」を位置付けて授業づくりを行う。 ②教科等部会等の時間を活用して、教職員のＩＣＴ機器活用推進の検討や、ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥの実施計画案・情報共有等を実施する。	①学校評価のＩＣＴ教育について肯定的回答８０％以上及び各教科等の授業状況９０％以上となったか。 ②教科等部会や研修等で、教職員のＩＣＴ機器活用推進の検討や、ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥの実施計画案・情報共有等を実施できたか。	①保護者学校評価のＩＣＴ教育について、肯定的回答が７６％と前年度とほぼ変化はなかったが、教職員学校評価は９０％となった。 ②市教委にＩＣＴ活用研修の講師を依頼し、研修を実施し、スキルアップを図った。ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥについては、実施計画案・情報共有等は、十分にできたとは言えない状況であった。	B	①教職員のＩＣＴ機器を活用した授業状況は改善されてきたので、今後さらに活用を推進したい。また、活用状況や児童の学習への効果などをいかに保護者に周知していくかの方策を立てていく。 ②ＩＣＴ活用研修を継続していくとともに、ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥについて、確実に情報共有を図っていく。	・ＩＣＴ教育推進の環境を、学校がしっかり整えていることがわかる。 ・今後も教職員のＩＣＴ活用能力を研修等通して高めてほしい。 ・月１回のＩＣＴを活用した宿題があるとのことだが、もう少し増やしてもよいのではないか。